

令和5年度入省予定 環境省総合職理工系

内定者の声

内定者プロフィール

公務員試験対策

官庁訪問体験記



はじめに

「内定者の声」を手にとっていただき、ありがとうございます。
本書は未来の仕事仲間たる皆さんの不安や疑問を解消するために、内定者の私たちが作成したものです。第1部では「内定者はどのような人か」、第2部では「公務員試験をどのように乗り切ったか」、第3部では「官庁訪問はどうだったか」について記載しています。
ぜひご参考になしてください！

2022年12月 環境省総合職理工系内定者一同

本冊子の構成

はじめに

第1部 内定者を知ろう！（P.2 ～ P.23）

- 内定者の基本データ（学科/専攻、性別、就活スケジュールなど）
- 志望動機
- 環境省を志望される方へのメッセージなど

第2部 公務員試験を知ろう！（P.24 ～ P.47）

- 内定者の公務員試験基本データ（試験区分、席次など）
- 勉強量について
- 勉強内容・試験内容について

第3部 官庁訪問体験記（P.48 ～ P.66）

- 環境省の官庁訪問について
- 内定者の官庁訪問基本データ（併願先など）
- 官庁訪問参加者による座談会

おわりに



※環境省Webサイトでも公開しております。

(https://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_ra2/from_pe/index.html)

《注意》

令和4年度の官庁訪問は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、リモートによる説明会・面接等が実施され、例年とは大きく異なるものとなりましたのでご注意ください。
最新の情報については人事院国家公務員試験採用情報NAVI
(<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>) でご確認ください。

1. 内定者を知ろう！



第1部. 内定者を知らう！

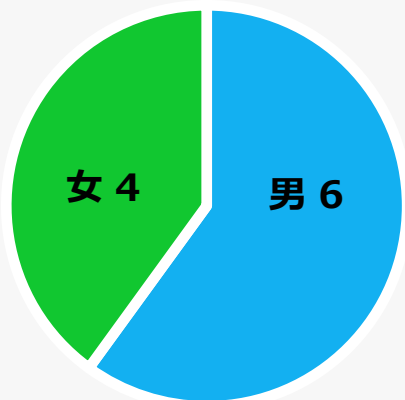
令和5年度入省予定の総合職理工系内定者は、全10名となりました。第1部では、まず今年の内定者の内訳を過去5年間（平成31年度から令和5年度まで）のデータと併せて概説したのち、内定者各人のプロフィールを掲載しています。また、個人情報保護の観点から実名の代わりに各内定者のペンネームを使用しています。あらかじめご了承ください。



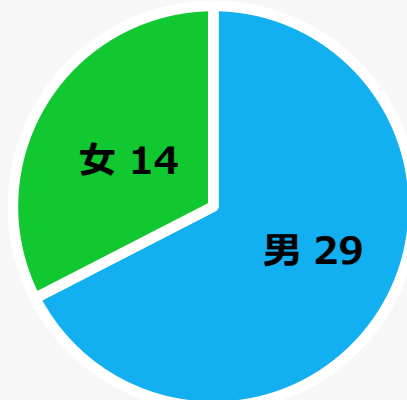
□ 内定者の基本データ

□ 男女比

令和5年度入省内定者

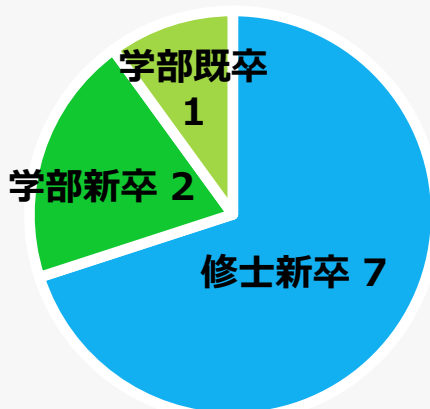


過去5年間

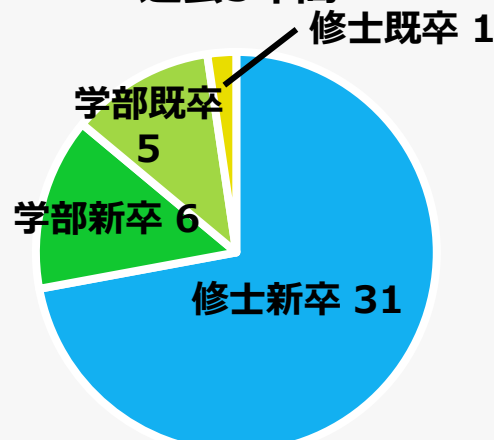


□ 最終学歴

令和5年度入省内定者



過去5年間



次のページからは総合職理工系内定者10名一人一人を紹介していきます。趣味や研究内容から、環境省を目指した理由まで詳しく載せているので、ぜひ参考に見てみてください！

No.1 翠（23・男）

● 基本情報

試験区分	農業科学・水産
大学所在地	東京都
学部（研究科）	農学生命科学研究科
学科（専攻）	水圏生物科学専攻
研究内容	マイワシの卵
出身地	神奈川県
部活動・サークル	バドミントン
趣味	絵・ゲーム・SNS
特技	絵(...多分)
好きなもの	サブカル・駄弁



最近は歳なのか脂に負けてしまうので高校時代に戻りたいですね...

● 就活事情

併願先（民間）	なし
併願先（他省庁等）	水産庁
インターン先	なし

大学3年

（就活は...院進するしまだ考えなくていいか...博進しよっかな...）

大学4年

（就活は...まだいいか...まだ慌てる時間じゃない...）

大学院1年

10月に研究が好きじゃないことを自覚→博進をやめる→急ピッチで就活開始。国家総合職単願に決める。計画性とは。

大学院2年

研究を休止して試験対策。環境省と水産庁。第3クールで環境省を選択。内定いただけた。

● 環境省を志望した理由

● 興味を持ったきっかけ

小さいころから**動物が好きだった**ので、お金や人間だけのためではなく他の生物のためになるような仕事がしたいと考えていました。獣医や環境保護団体等も考えましたが、「**一番大きな規模で抜本的な取り組みができるのは何だろう**」と思い環境省に目を付けたのが始まりだったと思います。

● 併願先との比較

ホワイト、というとは少し違ふし逆に胡散臭くなってしまうのですが、**風通しは良さそう**と感じました。他の省庁と比べて**働き方改革**にも力を入れていますし、なるべく**新しいものを取り入れ良くしていこう**という**風潮**がある気がしました。民間との違いとしてはやはり利益に振り回されなくてよいところでしょうか。民間よりも長い目・広い視野で問題に取り組めるのが良いところかと思いました。

● 最終的な決め手

私の場合併願先は水産庁でした。水産庁への志望理由も同じで、水産業という人間活動を通じて野生生物のために何かできないかな～という感じです。正直なところ、自分が水産系出身なのもあって最初は水産庁が第一志望だったのですが、官庁訪問を通じて職員の方の雰囲気や自分が所属した時のイメージから環境省に決めた、といった次第です。結構**直感で決めた**感じですね笑

● 環境省を目指す人へのメッセージ・アドバイス

私が就活を通して一番大事だと思ったことは「**堂々と振舞うこと**」でしょうか。正直私は就活を始めたのが遅いですし、大学の専門も違うので環境問題に対する知識や経験も多くありません。性格も内向的なので「学生時代力を入れたこと」もないぞ...って感じでした。

ですが、**受け答えの仕方**を評価していただけたのかなと思っています。下手に見栄を張らないけれど、自分なりの考えを紡ぎだしてはっきりと伝えることが大切だったのかなあと今では思っています。某太陽の化身テニスプレイヤーの方の精神を1mmでもいいから模倣してみるといいかもしれない...



成功談

大学のキャリアサポート室や学生による就活支援サービスを積極的に利用し不安を和らげられた。

失敗談



M1の秋というぎりぎりまで就活から眼を逸らし続けたこと！友人間で自分だけ内定がなかったのが焦りました。



No.2 水素（24・男）

● 基本情報

試験区分	工学
大学所在地	広島県
学部（研究科）	先進理工系科学研究科
学科（専攻）	先進理工系科学専攻
研究内容	熱化学法を用いた水素製造
出身地	徳島県
部活動・サークル	野球
趣味	ゴルフ・温泉巡り
特技	アイロンがけ
好きなもの	猫・BBQ



研究している様子を取材して頂き、YouTubeに出演しました。

● 就活事情

併願先（民間）	電力会社・プラントエンジニアリング
併願先（他省庁等）	経済産業省
インターン先	商社・電力会社

大学3年

漠然と公務員を思い浮かべていましたが、実際に対面で霞が関の説明会に参加し、国家公務員を志しました。

大学4年

コロナで公務員試験・官庁訪問が延期になったため、最終合格を死守し、確実性の高い大学院進学を決意しました。企業との共同研究と学会の沼への入り口へと入り込みました。

大学院1年

民間企業のインターンや説明会に参加しながら、1年間で7回学会発表をし、企業との共同研究に従事しました。

大学院2年

5月半ばまでは民間企業の選考に参加し、6月より春官庁訪問に参加しました。この間、研究や共同研究の会議は休まず取り組み、気分転換としていました。

● 環境省を志望した理由

● 興味を持ったきっかけ

幼い頃から環境問題に触れており、**環境に配慮された社会**を作りたいと思っていました。大きな転換点として、学部時代の「蒸気動力」という授業が挙げられます。石炭火力発電所の低コストであるというメリットが講じられ、環境軽視の雰囲気がありました。この授業を通して、**経済性はもちろん環境性にも配慮されたエネルギーや社会づくりに貢献したい**と思うようになりました。

● 併願先との比較

水素の研究をしていたこともあり、再エネをはじめとした、低環境負荷エネルギーを前提に就職活動をしていました。第一志望は国家公務員でしたが、保険の気持ちで、電力会社やプラントエンジニアリングなどの民間企業の選考に参加しました。どの企業も素晴らしいと思った一方で、**エネルギー問題や環境問題などの社会課題解決に貢献したいという想いが強い**ことに気づかされました。

● 最終的な決め手

最終的な決め手は、環境省の面接官の「**環境省の仕事は少数派に寄り添い、少数派を作り出さないこと**」という言葉です。**私の根っこには、少数派に寄り添いたいという想いがありました**。他の企業や省庁でもエネルギーに関わることはできても、少数派に寄り添い、少数派を作り出さない仕事は**環境省でしかできない**と感じ、環境省で働きたいという想いが強くなりました。

● 環境省を目指す人へのメッセージ・アドバイス

環境省に限らず、様々な業界や企業についても調べてみると良いかもしれません。幅広く調べてみる中で、**自分が本当にやりたいことが見つかる**こともあると思います。ぜひ、**自分に正直になって**、説明会や選考に挑んでください。話を盛ったりして、選考を通過するのではなく、自分に納得のいく形で就職活動を進めてください。

また、その中で環境省を目指す方は、説明会やOB・OG訪問、職場訪問を通してミッションやカルチャーを学んでほしいです。モチベーションの向上につながると思います。



成功談

民間企業の面接を経験したことで、官庁訪問では堂々と話すことが出来ました。

失敗談



共同研究の会議と官庁訪問が被り、待ち時間中もPCを触らざるを得ない状況になってしまいました。



No.3 たねまる（24・女）

● 基本情報

試験区分	化学・生物・薬学
大学所在地	神奈川県
学部（研究科）	理工学研究科
学科（専攻）	基礎理工学専攻
研究内容	燃料電池の白金触媒の開発
出身地	神奈川県
部活動・サークル	野球サークル
趣味	ギター演奏
特技	体が柔らかいこと
好きなもの	寺巡り、猫



登山に挑戦してきました。体を動かすことが大好きです！

● 就活事情

併願先（民間）	メーカー、独立行政法人
併願先（他省庁等）	なし
インターン先	メーカー

大学4年

環境問題やエネルギー分野に興味を持っていた。

大学での研究活動を通じて研究職は自分に合っていないと感じる。（国家公務員は全く考えていない）

大学院1年

研究室の先輩が勤めているエネルギー系独法やインフラの説明会に参加する中で、環境省に興味を持つ。

7月、環境省のインターンに申し込むが緊急事態宣言のため中止に。Web説明会等のイベントにはこの頃から参加。

12月から試験勉強を始める。民間企業の早期選考にも申し込み始める。

2月、メーカー内々定

大学院2年

メーカーや独立行政法人などの就活も引き続き並行して進める。

7月、官庁訪問→環境省内々定

● 環境省を志望した理由

● 興味を持ったきっかけ

小中学生くらいから**地球温暖化**や**エネルギー問題**に興味を持っていました。その影響もあり、大学院では燃料電池触媒についての研究に取り組んでいましたが、それよりも**脱炭素技術の導入や利用を促進するような社会の仕組みを作る方が脱炭素社会に向けた大きな力になるのではないかと考え、環境省を目指すことになりました。**

● 併願先との比較

M1の秋まではインフラも見ていたのですが、自分が興味があるのがエネルギー全般というよりは再エネや水素で、その根っこには**環境問題を解決したいという思い**があると気づき、やはり環境省が第一志望だと再確認しました。また保険のつもりで自分の研究分野や興味のある分野に近そうなメーカーも併願しました。

● 最終的な決め手

自分のやりたいことは環境省でしかできないと思っていたので、ずっと環境省が第一志望でしたが、オンラインの若手座談会や官庁訪問で、**職員の方の環境行政への熱い思い**に触れ、さらに環境省への気持ちが強くなりました。**話しやすい雰囲気の方ばかり**なのも後押しとなった要因のひとつです。

● 環境省を目指す人へのメッセージ・アドバイス

ぜひ環境省だけではなく、民間企業や他の省庁のことも調べてみてください。就職活動で大切なのは、**広い視野を持つこと**だと思います。周りの人の志望や自分の今の研究テーマなどに縛られず、自分の興味や好きなことに立ち返って、将来やりたいことを見つけてほしいです。

また、**ぜひ座談会やOBOG訪問の機会を活用して環境省の職員の方と話してみてください。**私は職員の方の思いに触れることでモチベーションがかなり上がりました。悔いのない就職活動ができることを願っています。



成功談

オンラインだったのもあり、**多くの説明会に参加できた。**幅広い分野の業務への理解が深まった。

失敗談



5月頃、民間の面接と2次試験の勉強を並行して進めるのが大変だった。受ける民間企業をもう少し絞ればよかった。



No.4 Rstudio (25・男)

● 基本情報

試験区分	農業科学・水産
大学所在地	東京都
学部（研究科）	海洋科学技術研究科
学科（専攻）	海洋管理政策学専攻
研究内容	インド洋メバチの 資源量解析
出身地	静岡県
部活動・サークル	軽音楽
趣味	ギター演奏
特技	料理
好きなもの	魚



高1のときからギターを弾いています。研究や就活がうまくいかない時も、ギターの音が勇気をくれます！

● 就活事情

併願先（民間）	建設コンサルタント・商船会社
併願先（他省庁等）	なし
インターン先	商船会社など

大学3年

大学院に行くことを決めていたので、修士の研究を見据えた上で研究室を選びました。

大学4年

院試の勉強を進めると同時に、公務員を進路にする同級生や先輩をみて興味がわきました。

大学院1年

民間も受けたいと考えていたので、修士1年のときに公務員試験を受けました。無事合格。

大学院2年

民間の選考を受けつつ官庁訪問へ。無事内定をいただけたので環境省に進む事を決めました。

● 環境省を志望した理由

● 興味を持ったきっかけ

私は物心ついたところから**自然や生き物の事が好き**で、幼少期から**環境を保全する事ができる仕事に就きたい**と考えていました。そして、どうせ働くなら最も大きい団体で働く事が自分のモチベーションになるだろうと考え、**日本の環境分野事業の最上流**に位置する環境省に興味を持ちました。

● 併願先との比較

私は併願先として、商船会社やIT企業、食品企業、建設コンサルタントなど様々な業界の企業を見ましたが、どの企業も「どのように自らの価値を高め市場を勝ち抜いていくか」という競争意識が高かったのに対し、環境省は**どのように社会的弱者を救うのか**という目線が強いように感じました。

● 最終的な決め手

最終的な決め手は**官庁訪問で気の合う方が多かった**からです。話の内容が業務内容でもプライベートである事でも自然と話が弾んで、自分が働く上で最も波長が合う人が多いのは環境省かもしれないな、と考えたため進路を決定しました。

● 環境省を目指す人へのメッセージ・アドバイス

環境白書を読み込んだり、座談会や説明会に多く行く事をオススメします！白書を読み込む事でいま国が抱えている課題やそれに対するアプローチを知る事ができます。また座談会や説明会に行くことで、ホームページや白書からは読み取る事ができないような業務内容の深いところまで聞く事ができます。

これらを通じて、自分目線の問題解決の方法を考えたり、自分が働き始めた後の姿を想像したりすることでモチベーションを高く保つ事ができますし、何より官庁訪問のいい練習になります！これを読んでますます環境省に興味を持っていたけると幸いです！



成功談

民間をたくさん受ける余裕があったので、官庁訪問ではスムーズに話すことができました。

失敗談



座談会に1回しか参加しなかったこと…業務内容の理解が拙かったので官庁訪問では苦労しました。



No.5 サウナー（21・男）

● 基本情報

試験区分	化学・生物・薬学
大学所在地	千葉県
学部（研究科）	薬学部
学科（専攻）	生命創薬科学科
研究内容	PARP1とカフェイン代謝物の共結晶化
出身地	埼玉県
部活動・サークル	写真サークル
趣味	邦ロック、お笑い
特技	水泳
好きなもの	サウナ、スニーカー



最近お気に入りのサウナです。ストレス解消になります。

● 就活事情

併願先（民間）	無し
併願先（他省庁等）	厚生労働省、東京都
インターン先	製薬企業

大学2年

コロナ禍になり、自分の将来を案じ、就活や大学院進学について考え始めた。

3月に総合職中央省庁セミナーに参加。

大学3年

7,8月に製薬会社の説明会、インターンに参加。

10月から公務員試験の勉強を開始した。

大学4年

国家公務員総合職試験に最終合格。

環境省から内々定を頂く。

東京都に最終合格したが、辞退した。

● 環境省を志望した理由

● 興味を持ったきっかけ

私は人々の健康を守り、QOLを向上させたいという思いで、**薬学部**に進学しました。大学の公衆衛生学の講義で、アスベストやPM2.5などの環境汚染による健康被害や気候変動による新興・再興感染症のリスクの増加を学びました。**健康と環境が密接に関わっていることを知り、環境問題の解決に取り組みたいです**と考えるようになりました。

● 併願先との比較

漠然と**困っている人の手助けをしたい**という気持ちがありました。当初は自分の専門性を活かせる製薬会社も考えていましたが、民間企業のサービスだけではどうしても救えない存在があり、**誰一人取り残さない社会を構築したい**と公務員を志しました。

● 最終的な決め手

厚生労働省と悩んでいましたが、面接の中でお話しいただいた業務内容がとても興味深く、環境省の志望度が高まっていました。また、第2クールから対面での訪問が始まり、実際に職員の方々の雰囲気を見て、**風通しの良さ**を感じ、自分もここで働きたいと強く思うようになりました。

● 環境省を目指す人へのメッセージ・アドバイス

官庁訪問を通して、様々なお話を聞き、自分で考えることで、自分はこれから何をしたいのかが明確になったと思います。もちろん精神的にも体力的にもきついですが、様々な職員の方々から貴重なお話を聞かせて頂く機会なので、**無理に取り繕ったり、思い詰めたりせず、自分が考えたことを全力でぶつけましょう**。そうすることで職員の方々からも充実したアドバイスやフィードバックが頂けます。

就職活動は正解がなく悩むことが多いと思いますが、自分が心の底から納得するまで考え続けてください。自ずと道は開けてくると思います。



成功談

興味のある政策は**白書**や**重点施策集**を読み込んだので、面接で役立ちました。

失敗談



官庁訪問は相当体力を使うので、官庁訪問期間中はアルバイトは休むべきでした。



No.6 黒笛（25・男）

● 基本情報

試験区分	化学・生物・薬学
大学所在地	東京都
学部（研究科）	工学系研究科
学科（専攻）	化学生命工学専攻
研究内容	高分子、材料化学
出身地	東京都
部活動・サークル	吹奏楽
趣味	音楽、ドライブ
特技	楽器演奏
好きなもの	温泉、ラーメン



友人とよく国内旅行に行きます。仕事がどんなに忙しくなっても旅行には行きたいです…

● 就活事情

併願先（民間）	なし
併願先（他省庁等）	経済産業省
インターン先	なし

大学3年

理系なら修士課程までは行くものだと思っていたので、将来の仕事のことはあまり考えていませんでした。この頃はサークル活動も頑張っていました。

大学4年

将来研究者の道に進むかどうかは研究活動を経験してから決めようと考えていましたが、コロナ禍で研究者としての将来は見通しづらかったため悩んでいました。

大学院1年

研究を続ける中で、仕事でやりたいのは研究ではないなと思うようになりました。もともと公務員も検討していたので、研究室の先輩の勧めもあり大卒程度試験を受験しました。

大学院2年

民間の説明会も何度か行きましたが、公務員以上の魅力を感じれなかったため公務員に絞って就活。

既合格者向けの春の官庁訪問に参加し、環境省内々定。また、併行して院卒者試験も受験しました。

● 環境省を志望した理由

● 興味を持ったきっかけ

幼少期にボーイスカウトをしたり家族旅行に行ったりする中で、**水と緑が豊かな自然の大切さ**をととても意識するようになりました。一方でいつからか、世の中に溢れる便利なモノが「**リサイクル方法が決まっておらずゴミになってしまうモノ**」ばかりだという問題意識を持つようになりました。この二つの「意識」を大事にできる仕事は何かと考えた時に、私の場合は公務員であり、環境省でした。

● 併願先との比較

経済産業省と迷っていました。経産省は、組織としての規模は環境省より大きいですし、産業界のあらゆる団体や組織とのつながりが強く、環境問題に限らない様々な課題解決のための包括的な手段が取りやすいと思います。一方環境省は、**日本各地に根ざした環境問題を個別に解決しようという志向が強いように感じ、一つ一つの政策が目指す社会のあり方も具体的にイメージしやすかった**です。

● 最終的な決め手

経産省の場合は「環境政策は経済政策の一環」という位置付けでした。一方環境省は、「**個別の環境政策を推進する中で、経済（や他のこと）との両立を図る**」という（私の）イメージです。どちらの立場で環境政策に取り組みたいかと考えた時に私は後者でした。また、対面やオンラインでの説明会や職場訪問、官庁訪問での**職員の方々の雰囲気**の違いも感じていました。

● 環境省を目指す人へのメッセージ・アドバイス

経済産業省と併願する方もいると思いますが、**各省庁がどのような政策を打っているか**を分析しておくのが大事です。各省庁が所管している法律まで整理できているとなお良いと思います（私はたまに混同しそうになりました）。

そして、どの環境問題に特に取り組みたいか、他の社会問題との関係をどう捉えているかなどを考えておく**と志望動機もまとめやすい**と思います。

また、全体向けの説明会だけでなく、自分から採用担当の方に連絡して**職員の方からお話を聞く機会**があると、働く姿のイメージが湧くと思います。



成功談

M1で大卒区分の合格をもらったこと。その後の安心材料になり、また次の年の院卒者試験への対策が軽くて済みました。

失敗談



民間就活を殆どしなかったこと。博士進学を検討してる人でない限り、M1の時期から民間の就活もしましょう。



No.7 珈琲（22・女）

● 基本情報

試験区分	農業科学・水産
大学所在地	東京都
学部（研究科）	農学部
学科（専攻）	国際開発農学専攻
研究内容	気仙沼の湿地に含まれる鉄について
出身地	東京都
部活動・サークル	剣道
趣味	映画鑑賞、ドライブ
特技	剣道
好きなもの	珈琲をのむこと



10年間剣道をしていて、大学でも剣道部に入っています。大きい声を出すとストレス発散になります！

● 就活事情

併願先（民間）	政府系金融・コンサル公共部門
併願先（他省庁等）	無し
インターン先	無し

大学3年

秋までは大学院に進むつもりだった。

年末に環境省を第一志望として就活を考え始めた。公務員試験の勉強と同時に、自己分析や業界分析を始めた。

3月には環境系のベンチャー企業の面接を受けた。

大学4年

3,4月頃から政府系金融とコンサルの面接が始まった。6月にはコンサルから内定をいただいた。

7月頭に環境省から内々定をいただいたので、政府系金融は辞退した。

● 環境省を志望した理由

● 興味を持ったきっかけ

昔から環境問題への意識が強くありました。小さい頃から海で泳いで育ってきたため、海を含め**多くの自然を守りたい**と思い農学部に入っています。また私は理系の学部卒で周りを見ても就職は少数派でしたが、**若いうちから社会に出て挑戦してみたい**と思い興味を持ちました。

● 併願先との比較

政府系金融やコンサルを併願していました。ですが、もともと利益を増やすことを考えるよりは、環境のように、自らの力ではどうしてもできない**苦しい状況にあるものを助けるような仕事がしたい**という気持ちがありました。その中で、友人たちと話しているうちに、自分は**公務員という職が向いているのではないかと**考えるようになりました。

● 最終的な決め手

最後は民間とも迷いましたが、官庁訪問期間でお話した職員の方々の熱意に圧倒されたこと、環境省でなら自分のやりたいことができると考えたことなどから、環境省に決めました。私と同じように環境問題を解決したい、社会を変革したい、という**熱い思いを持った人々と共に働きたい**と思いました。

● 環境省を目指す人へのメッセージ・アドバイス

実用的なアドバイスとしては、**たくさん説明会や個別相談会に行ったり、採用パンフレットを見ること**をお勧めします。その方が、官庁訪問期間に良い面接ができることはもちろんですが、私は、環境省への興味が大きくなって試験勉強へのやる気につながりました！

環境省の職員の皆さんは、学生側に強い意志があれば、とことん話を聞いて深掘りをしてくださると感じました。ですので、ぜひ官庁訪問までに環境省にかける思いを高めてぶつけてください。しっかり伝わると思います！そしてその結果、環境省を志望してくださることを願っています！



成功談

（公共性のある所に限ってだが）**民間就職**を行なったため、官庁訪問でスムーズに話すことができた。

失敗談



試験と民間就職、部活、学業の両立が大変で、体力的に官庁訪問は環境省しか回れなかった。（結果的には良かった）



No. 8 ベル（23・女）

● 基本情報

試験区分	化学・生物・薬学
大学所在地	東京都
学部（研究科）	創造理工学研究科
学科（専攻）	地球・環境資源理工学専攻
研究内容	大気中マイクロプラスチック
出身地	広島県
部活動・サークル	環境ボランティア
趣味	カフェ巡り
特技	バトントワーリング
好きなもの	料理



研究室の富士山
サンプリングで作った
雪だるまです！！

● 就活事情

併願先（民間）	電力会社
併願先（他省庁等）	経済産業省
インターン先	経済産業省、シンクタンク、電力会社、独立行政法人、新聞社など

大学3年

8月 国立環境研究所インターンに参加。

大学4年

9月 海洋プラスチックごみ問題に関する日本とASEANのプロジェクトに参加。（その後修士卒業まで活動を継続）

大学院1年

6月 各省庁の業務説明会やイベントに参加し始める。

8, 9月 民間や経産省インターンに参加。

11月 環境省OB訪問。

大学院2年

1月 公務員試験勉強を本格的に開始。

3~6月 研究室生活 + 公務員試験勉強 + 民間就活

7月 官庁訪問→環境省内々定

● 環境省を志望した理由

● 興味を持ったきっかけ

中学時代の短期留学をきっかけに、元々環境問題に興味を持っていました。そのため、大学では環境・資源エネルギーについて幅広く学べる学部を選びました。研究内容が環境省の政策分野と一致していたこともありましたが、課外活動を通して、**幅広い環境研究・技術をライフスタイルの変革や仕組みづくりにつなげていく立場で環境問題解決に貢献したい**と思ったので興味を持ちました。

● 併願先との比較

経産省を併願していました。環境省も経産省も「**環境に配慮した持続可能な社会**」を目指すという大きなゴールは同じだと思います。その中で経産省のミッションは産業政策です。環境省では、環境を軸に様々な分野に携われると思います。職員の方々と色々お話しして、両省それぞれの雰囲気を感じるのも大切だと思います。

● 最終的な決め手

環境問題を解決するために産業構造・経済の転換が必要だと思い経産省も見えていました。両省のお話を聞いて、経済も国際競争力・産業政策を進める上で**環境なくしては語れない**と実感し、**本来の私の軸であった環境**について環境省で**挑戦的に**取り組みたいと思いました。

● 環境省を目指す人へのメッセージ・アドバイス

私は、官庁訪問・民間就活を通して、自分の意見を言う・社会を知るなどとても成長できた面が多かったと思います。また、自分にしっかり向き合い続けることで、これまでの周囲の環境に感謝できたり、**これからの自分を考えるととてもいい機会**になりました。

国家公務員になりたいという強い気持ちはありながら、**自分の専門科目と一致する試験科目区分がなく諦めようか悩んだ**こともありましたが、最後まで頑張ったよかったです。試験・官庁訪問と長丁場ですが、頑張ってください。応援しています！



成功談

何度も説明会・イベントに参加したことで、環境省の業務内容への理解を深めることができたと思います。

失敗談



周りに国家公務員を目指す友人や公務員試験を経験した先輩があまりいなかったのも、情報収集に苦労しました。



No.9 御朱印（25・男）

● 基本情報

試験区分	農業科学・水産
大学所在地	京都府
学部（研究科）	農学研究科
学科（専攻）	生物資源経済学専攻
研究内容	近代の徳島県における砂糖製造
出身地	徳島県
部活動・サークル	将棋、ソフトボール
趣味	ボードゲーム全般
特技	将棋
好きなもの	寺社仏閣めぐり



寺社仏閣や日本庭園に行くことが好きです。

● 就活事情

併願先（民間）	インフラ・食品
併願先（他省庁等）	農林水産省・消費者庁・地方公務員
インターン先	無し

大学4年

就職する同期が多い中、大学院進学。

大学院入試の出題テーマが国家公務員採用職試験の専門試験の範囲に含まれるため、院試の勉強を採用試験にそのまま生かすことができた。

大学院1年

モラトリウムを謳歌し、研究と就活どちらに対してもふまじめな日々を過ごす。

年明けから本格的に就活を開始するも、志望する業界や勤務地は定まっていなかった。

大学院2年

民間に内定をいただき、地方公務員も選考中の6月から官庁訪問に参加。

併願先と迷うも、環境省への入省を決意。

● 環境省を志望した理由

● 興味を持ったきっかけ

私は大学の実習先や旅先において、地域ならではの料理や景観を楽しむことが趣味なのですが、大学の講義や実習の際に、農家の方が近年の異常気象に悩まされていることや、美しい景観が失われつつあることを学びました。**自分の関心が深い農業や自然に対して、環境という視点で貢献できることがあるのではないかと感じました。**

● 併願先との比較

民間や地方公務員と比較して、国家公務員は**長期的でスケールの大きい事業**にかかわることができ、多くの機関とかかわりを持つことで**多様な価値観を学ぶことができるのではないかと**考えていました。そのなかでも環境省は**ひとりひとりの裁量や責任が大きい**ということを説明会や官庁訪問で職員の方から伺っていました。

● 最終的な決め手

環境問題はそれにより不当な被害を受けてしまうことがある、いわば理不尽な問題であると考えているのですが、この**理不尽さを解消することが自分の性格ややりがいに合致する**と思ったことと、官庁訪問の際に、職員の方々の考え方や省全体の雰囲気自分が合っているのではないかと感じたことです。

● 環境省を目指す人へのメッセージ・アドバイス

さまざまな業界や企業の情報を集めておくといいかかもしれません。人事院面接や官庁訪問では、国家公務員としてあるいは環境省として、何がしたいかを問われることがあります。そのときに他省庁や異業種の分析をしておく、説得力のある受け答えができるのではないかと思います。**環境省にかぎらず、他省庁や異業種の就職活動も積極的に試みてはいかがでしょうか。**

そして、**官庁訪問や面接では人事を尽くして天命を待ちましょう。**結果が出ないこともあるかもしれませんが、縁がなかった、相性が悪かったのだと割り切って考えましょう。



成功談

自分の性格もありますが、民間就活のおかげで、年次の高い方との面接にも緊張せずに挑めました。

失敗談



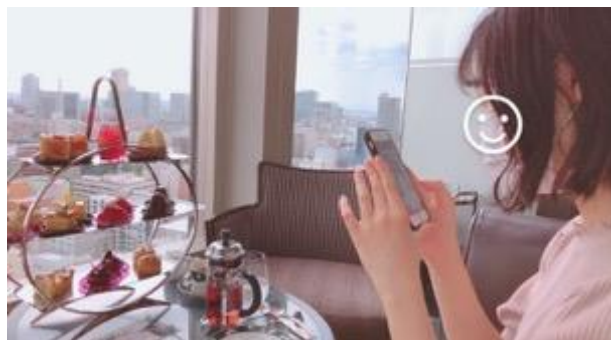
説明会やOB訪問にあまり参加しなかったことで、業務理解が不十分なまま官庁訪問に参加しました。



No.10 カスミソウ（24・女）

● 基本情報

試験区分	農業科学・水産
大学所在地	北海道
学部（研究科）	農学院
学科（専攻）	農学専攻
研究内容	植物根が鉍物中の K・Csに与える影響
出身地	神奈川県
部活動・サークル	剣道
趣味	カフェ巡り・散歩
特技	お花をいけること
好きなもの	甘いもの全般



疲れたときは甘いものを食べていっぱい寝る！これでだいたい元気になります。

● 就活事情

併願先（民間）	無し
併願先（他省庁等）	農林水産省
インターン先	無し

大学3年

大学4年で合格することを目指し、公務員試験勉強を開始。

大学4年

授業に加え、超多忙な研究室生活に追われる。

案の定公務員試験に落ちてしまったので、大学院進学を決意。

大学院1年

4月から民間の就活を始めつつ、公務員試験勉強にもラストスパートをかける。

官庁訪問では環境省と農林水産省を訪問。

7月頭に環境省から内々定をいただき、就活をストップ。

修士1年で内定をいただいたため、大学院を中退するか否かで悩む。現在は働きながら修士論文を書こうと画策中。

● 環境省を志望した理由

● 興味を持ったきっかけ

研究の一環で福島県を訪れた際、東日本大震災の被害の甚大さや、汚染された農地の除染の困難さを痛感しました。

福島復興に携わりたいという思いはもちろんのこと、このことをきっかけとして、豊かな自然環境や暮らしを基盤づくりから支え、**人々が安心して暮らすことができる社会を作りたい**という思いから環境省を志望するようになりました。

● 併願先との比較

環境省は環境保護を念頭に経済との好循環をはかる一方、農林水産省は農業の振興を考える上で環境にも配慮するという違いがあると思っています。

環境を主な軸とし社会をより良いものとしていくことができるのは環境省ですが、私が農学部出身ということもあり農業と環境の2つの軸で働くことができる農林水産省もとても魅力的に感じており、最後まで迷いました。

● 最終的な決め手

業務内容はどちらの省庁も自分のやりたいことをカバーしていると思っていたため、**職員の方々や職場の雰囲気が決め手**となりました。

風通しが良く、若手の職員でも思っていることを発言しやすいところ、誰もが環境への強い思いを持っているところ、そして新しいことにチャレンジし続ける姿勢に惹かれ、最終的に環境省を選びました。

● 環境省を目指す人へのメッセージ・アドバイス

国家公務員になりたい！環境省で働きたい！と考えることは、言ってしまうと誰にでもできます。しかしこれを実現するためには一次試験、二次試験、そして官庁訪問と、多くのステップを乗り越えなければなりません。

この大きな壁が立ちふさがっていてもなお環境省を志す決断をした方は、それだけ社会をより良いものとしたいという強い思いがあることでしょう。

ぜひ、その思いを官庁訪問でぶつけてみてください。環境省の職員の方は熱意には熱意で返していただきます。**どうして環境省なのか、環境省で何を成し遂げたいか**をしっかりと自分で言葉にしていく過程で、自分自身を見つめ直す機会としてみてください。



成功談

説明会に何度も出席することで、官庁訪問でも環境省への熱意があるとの評価を受けたと感じました。

失敗談



夏バテとストレスでほとんどごはんを食べることができませんでした。官庁訪問は体力勝負なので、栄養ゼリーなどを持っていけばよかったです。

